

中泉十王堂遺跡 2

— 建売分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2018

ケイアイスター不動産株式会社
高崎市教育委員会
有限会社 高澤考古学研究所

例言

- 1 本書は、群馬県高崎市中央町字十王堂 67-1 に所在する「中泉十王堂遺跡 2」（高崎市遺跡調査番号 685）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、建売分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、黒崎 俊夫様の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課 角田 真也・矢島 浩・針井 修
有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
- 6 発掘調査は、平成 28 年 11 月 14 日から平成 29 年 1 月 14 日までの期間で実施した。調査面積は 430㎡である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
- 8 基準・水準点測量及び遺構平面図測量はタナカ設計に委託した。
- 9 空中撮影は加藤空撮に委託した。
- 10 遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
- 11 発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
井上 ゆかり・小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・田村 陸・円谷 純・高山 弘輝・柳沢 敏子・渡 明秀
- 12 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関、諸氏に協力を賜った。（敬称略、50 音順）
黒崎 俊夫・ケイアイスター不動産 株式会社・高前産業 株式会社・株式会社 伊藤測量
- 13 発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡例

- 1 遺構挿入図に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標 IX 系を使用した。
- 2 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
- 4 遺物実測図において須恵器の断面は黒塗り、灰釉陶器の断面は 70%、土師器の断面は白抜きで表現した。
- 5 遺物実測図において反転復元実測をした個体は口縁部線と中心線を離して表現した。
- 6 掲載図の縮尺は、各キャプション及び各図に示した通りである。
- 7 掲載図中に使用した断面図において、使用面は太線で表現した。
- 8 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
As-C …………… 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」
Hr-FP …………… 6 世紀中葉降下「榛名二ツ岳火山軽石」
As-B …………… 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A …………… 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

目次

例言・凡例・目次	
I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	4
V 調査の成果	6
VI 総括	8
写真図版	
参考文献・抄録	

挿図・挿表目次

第1図	周辺遺跡図(1/25,000)	3
第2図	遺跡位置図(1/2,500)	4
第3図	基本堆積土層 柱状図・写真	4
第4図	遺跡全体図(1/200) トーン部は畑 下は調査区西側部分	5
第5図	1号住居 平面図・断面図・掘り方(1/60) カマド 平面図・断面図(1/30)	6
第6図	1号住居出土遺物図(1/3)	7
第7図	2号住居 平面図・断面図 掘り方 平面図・断面図(1/60) カマド 平面図・断面図(1/30)	7
第8図	2号住居出土遺物図(No.3~6 1/3・No.7~9 1/4)	8
第9図	3号住居 平面図・断面図(1/60) 出土遺物図(1/3)	9
第10図	4号住居 掘り方 平面図・断面図(1/60)	10
第11図	5号住居 平面図・断面図(1/60) 出土遺物図(1/3)	10
第12図	6号住居 平面図・断面図(1/60)	11
第13図	1号竪立柱建物 平面図・断面図(1/60)	11
第14図	1号竪穴状遺構 平面図・断面図(1/60)	12
第15図	2号竪穴状遺構 平面図・断面図(1/60)	12
第16図	1号土坑 平面図・断面図(1/60)	12
第17図	2号土坑 平面図・断面図(1/60)	13
第18図	1号溝 平面図・断面図(1/60)	13
第19図	2号溝 平面図・断面図(1/60) 出土遺物図(1/4)	13
第20図	3号溝 平面図・断面図(1/60) 出土遺物図(1/4)	14
第21図	4号溝 平面図・断面図(1/60)	14
第22図	5号溝 平面図・断面図(1/60)	14
第23図	1~31号ビット断面図(1/40) 平面図は第4図参照	15
第24図	32~63号ビット断面図(1/40) 18号ビット出土遺物図(1/8)	16
第25図	畑 断面図(1/60) 平面図は第4図参照	16
第1表	1号住居遺物観察表(単位cm)	7
第2表	2号住居遺物観察表(単位cm)	8
第3表	3号住居遺物観察表(単位cm)	9
第4表	5号住居遺物観察表(単位cm)	10
第5表	2号溝遺物観察表(単位cm)	13
第6表	ビット・竪立柱建物柱穴 詳細表(単位cm・+は以上)	15
第7表	18号ビット遺物観察表(単位cm)	16

写真図版

PL1:空撮写真	PL2:調査写真	PL3:調査写真	PL4:調査写真	PL5:調査写真	PL6:調査写真
PL7:調査写真	PL8:調査写真	PL9:出土遺物写真			

I 調査に至る経緯

平成 28 年 7 月、土地所有者と開発主体者ケイアイスター不動産株式会社から高崎市中泉町において計画している建売分譲住宅建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である中泉十王堂遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 7 月 26 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 9 月 2 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代から平安時代の竪穴建物跡と畝跡を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「中泉十王堂遺跡 2」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 28 年 11 月 9 日にケイアイスター不動産株式会社と民間調査機関有限会社高澤考古学研究所との間で契約を締結、また同日にケイアイスター不動産株式会社・有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約 42 ～ 104cm 下であることが確認されている為、平成 28 年 11 月 16 日に重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘調査通り竪穴住居跡および溝等が確認され、調査区北側からは畑跡を検出した。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて座標を与え、平面図及びエレベーション図を作成し、写真記録を撮りながら調査を行った。写真は 35mm 小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの 2 種類のフィルムを使用し、1010 万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量はトータルステーションを使用し作成した。全ての遺構の調査が終了した後、ラジコンヘリコプターにて空撮を実施し、併せて各遺構の全景撮影を行った。その後、基本土層を確認する為に深掘りを行った。平成 29 年 1 月 10 日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け現地調査を終了した。

平成 28 年

- 11 月 14 日 現場調査準備 発掘器材搬入
- 11 月 15 日 調査区掘り出し作業
- 11 月 16 日 重機による表土除去作業開始 遺構確認作業
- 11 月 17 日 遺構確認作業 住居跡および溝検出
- 11 月 21 日 遺構確認作業 ビット土坑および畑跡検出 本日に重機による表土除去作業終了
- 12 月 1 日 畑跡掘り下げ作業開始
- 12 月 5 日 各遺構掘り下げ作業開始
- 12 月 20 日 ラジコンヘリコプターによる空撮
- 12 月 22 日 トータルステーションによる各遺構の平面測量
- 12 月 27 日 終了年越しの為現場養生作業

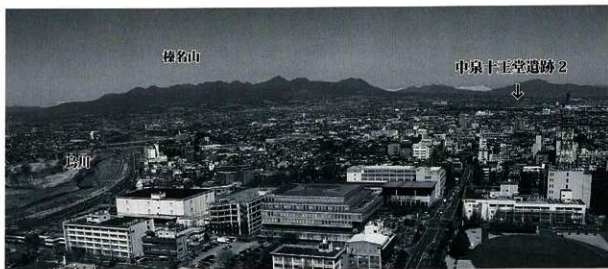
平成 29 年

- 1 月 5 日 重機により調査区西側部表土除去作業および遺構確認作業
- 1 月 6 日 各遺構掘り下げ作業および計測作業
- 1 月 10 日 基本堆積土層確認の為に深掘り作業 高崎市教育委員会により完了確認検査
- 1 月 11 日 トータルステーションによる各遺構計測作業
- 1 月 14 日 器材撤収作業 本日に現地調査終了

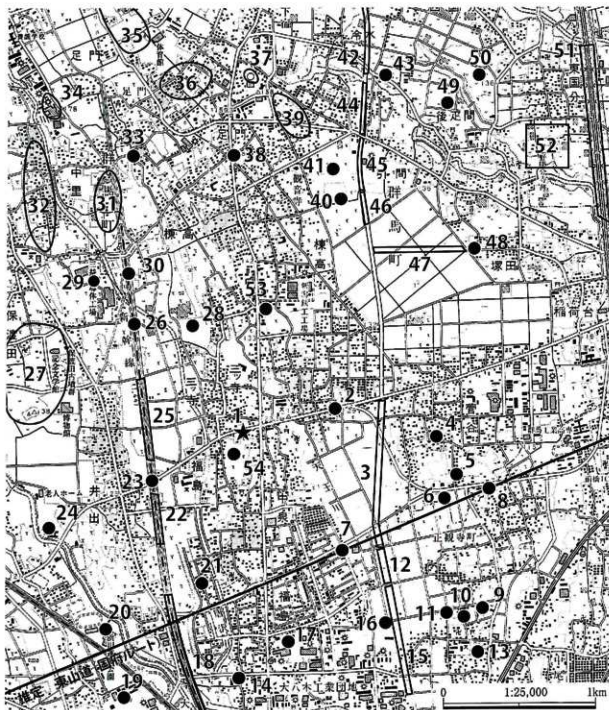
Ⅲ 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ権名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鈴山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。中泉十王堂遺跡2は、高崎市街地の北方向、県道10号線と県道25号線の交差点三ツ寺の信号から西約130mに位置し、高崎市中泉町字十王堂に所在する。本遺跡付近は、権名山南東に形成された相馬ヶ原扇状地の扇端部にあり、北西から南東に向い緩傾斜している。扇状地南部は八幡川、牛池川、染谷川、天王川、唐沢川等の小河川が侵食谷と自然堤防状の帯状微高地を発達させ、複雑な地形を形成している。本遺跡は、唐沢川と天王川に挟まれた幅約700m程の帯状微高地にあり、標高は124.5mである。

周辺遺跡としては縄文時代前期から生活の痕跡が確認されている。前期から中期の遺跡として西浦北遺跡(21)、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡(51)、大八木箱田池遺跡(17)があり、後期の遺跡として敷石住居が検出された小八木志貝戸遺跡(15)がある。弥生時代中期後半になると熊野堂遺跡(18)、雨南遺跡(14)のように集落が徐々に増加し、後期後半においては小規模な集落が多く存在するようになる。西浦北遺跡(21)、井出村東遺跡(22)、西三社免遺跡(46)、熊野堂遺跡(18)、正観寺遺跡群(11)等があげられる。古墳時代においては前代以上に集落の増加が認められ、井出村東遺跡(22)、三ツ寺Ⅱ遺跡(25)、三ツ寺Ⅲ遺跡(26)、棟高遺跡群Ⅰ(40)、棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡(41)、正観寺遺跡群(11)等では多くの住居跡が検出されている。また、三ツ寺Ⅰ遺跡(23)では豪族居館が検出され、隣接して保渡田古墳群(27)が存在している。権名山二ツ岳形成期における火山災害復興後の古墳時代後期から終末期になると、本遺跡から北西約1.4kmに毘沙門古墳群(31)、屋敷古墳群(32)、北東約1.5kmには北寝保窪古墳群が構築られ、標高150m付近より高い位置では、数多くの群集墳が形成されるようになる。奈良・平安時代にかけても遺跡は増加する傾向にあり、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、熊野堂遺跡(18)では数多くの住居跡が検出されている。また、本遺跡の南1kmには推定東山道が東西に走行し、国府推定地が東北東約3.5kmに存在している。生産遺構としては間道遺跡(24)、御布呂遺跡(20)、芦田貝戸遺跡(19)、熊野堂遺跡(18)、菅谷石塚遺跡(3)等でAs-C及びHr-FA、Hr-FPの火山噴出物により被災し埋没した古墳時代の水田跡が検出されており、西浦北遺跡、棟高遺跡群Ⅰ、棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡(41)、西国府新田遺跡(42)、冷水村東遺跡(44)では畑跡が検出されている。平安時代には、As-Bにより埋没した水田跡である芦田貝戸遺跡、御布呂遺跡、正観寺遺跡群(11)、井出村東遺跡、三ツ寺Ⅱ遺跡等も集落に隣接した低地より検出され、前代から引き続き活発な生産活動が営まれた様子が伺える。このように、本遺跡周辺は縄文時代以降、各時代における遺跡が多く分布する地域として周知されている。



高崎市役所からの遺景（北を望む）



1. 本遺跡
2. 榎高東弥三郎街道遺跡
3. 菅谷石塚遺跡
4. 菅谷城跡
5. 菅谷遺跡群
6. 正観寺諏訪廻I遺跡
7. 福島飛地遺跡(推定東山道)
8. 高貝戸遺跡(推定東山道)
9. 正観寺八木境遺跡
10. 中川遺跡
11. 正観寺遺跡群
12. 正観寺西原遺跡
13. 小八木宅地添遺跡
14. 雨壺遺跡
15. 小八木志貝戸遺跡
16. オトウカ山古墳
17. 大八木箱田池遺跡
18. 熊野堂遺跡
19. 芦田貝戸遺跡
20. 御布呂遺跡
21. 西浦北遺跡
22. 井出村東遺跡
23. 三ツ寺I遺跡
24. 間道遺跡
25. 三ツ寺II遺跡
26. 三ツ寺III遺跡
27. 保渡田古墳群
28. 塚上遺跡
29. 保渡田東遺跡
30. 保渡田遺跡
31. 鹿沙門古墳群
32. 屋敷古墳群
33. 養師堂古墳
34. 足門村西古墳群
35. 寺原敷古墳群
36. 鶴巻古墳群
37. 東久保古墳群
38. 観音寺古墳
39. 北嵯保塚古墳群
40. 柳高遺跡群I
41. 柳高水窪II・柳高辻の内IV遺跡
42. 西園分新田遺跡
43. 北谷遺跡
44. 冷水村東遺跡
45. 小池遺跡
46. 西三社免遺跡
47. 柳高辻久保遺跡
48. 引間六石遺跡
49. 後正間遺跡群
50. 西園分遺跡群
51. 上野園分僧寺・尼寺中間地域遺跡
52. 上野園分僧寺
53. 柳高南八幡街道遺跡
54. 中泉十王堂遺跡

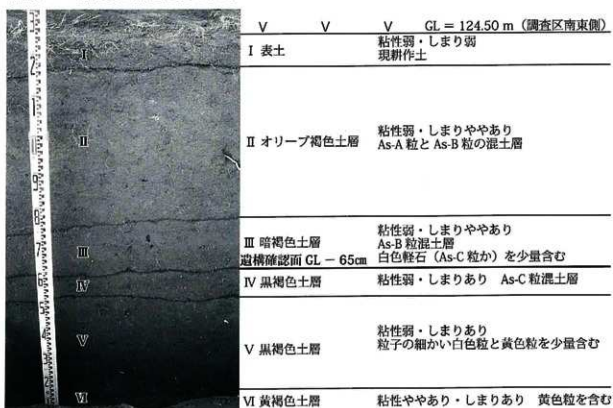
第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)



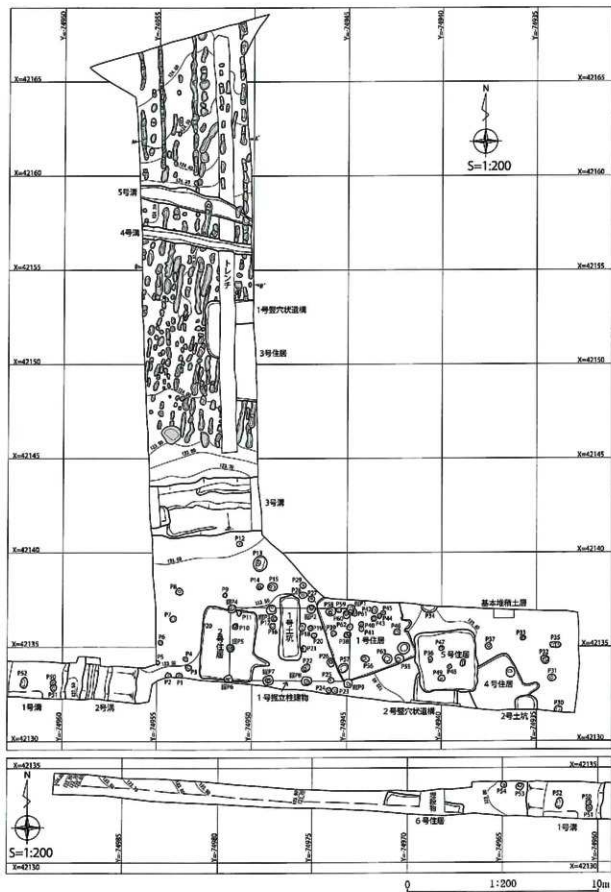
第2図 遺跡位置図 (1/2,500)

IV 基本堆積土層

I層は現表土で約20cm程堆積している。現在の耕作土の高、粘性および締まりともに弱い。II層はAs-A軽石とAs-B軽石の混土層で調査区北側では15cm程度の堆積であるが、調査区南側になると約45cmと厚く堆積している。III層はAs-B軽石とAs-C粒と考えられる白色軽石の混土層で、本層下が遺構確認面である。調査区北側で約25cm下、調査区南側で約95cm下である。IV層はAs-C粒混土層で10～15cm程調査区全体で堆積が確認されており、場所によりAs-C粒の含有量が異なる。V層は粒子の細かい黄色粒と白色粒を含む黒色土で、VI層がローム漸移層の黄褐色土層である。



第3図 基本堆積土層 柱状図・写真



第4図 遺跡全体図(1/200) トーン部は畑 下は調査区西側部分

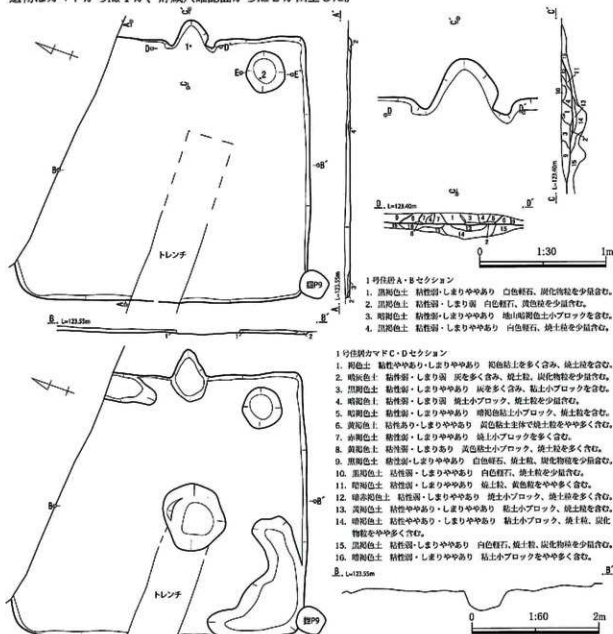
V 調査の成果

発掘調査の結果、竪穴住居 6 軒、竪穴状遺構 2 基、掘立柱建物 1 棟、溝 5 条、土坑 2 基、ピット 63 基、近世と考えられる畑を検出した。畑は調査区中央から北側に限定されて検出されており、北西および北東側に広がっているものと推測される。竪穴住居は南側に多く検出され、集落は南から南西方向へと展開しているものと推測される。また、2 と 3 号溝は区画的要素の強い溝で、中世の屋敷等の存在を示唆するものである。

竪穴住居

1号住居

調査区南側にて検出された。規模は南北 4.65 m、東西 4.24 m で、確認面から床面までの深さは約 7 cm と浅く遺存は悪い。掘立柱建物跡と重複関係にあり、本遺構の方が古い。カマドは東側に設置され、壁から外側に約 35 cm 張り出して構築されている。両袖部分は地山褐色土粘土が使用され、礫等は確認されなかった。壁は被熱の高焼土化し、使用面には灰の堆積が認められた。床面は全体的に平坦でカマド前面および住居中央付近が硬くしまっている。南東側に貯蔵穴が検出された。周辺からは多数のピットが検出されたが、確認面にて検出されている為、住居に伴うものではないと推測される。掘り方は浅く不整形で中央部に土坑が検出された。遺物はカマドから № 1 が、貯蔵穴確認面から № 2 が出土した。





第6図 1号住居出土遺物図 (1/3)

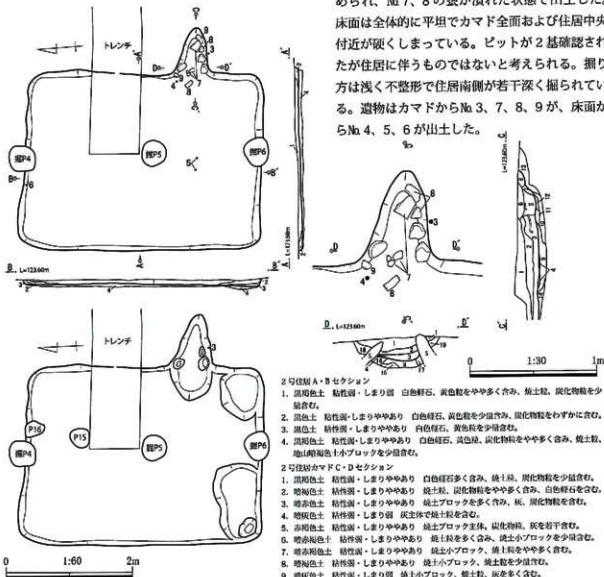
第1表 1号住居遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土箇所	口径・底径 器高・視高	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
1	土師器 杯	1号住居 カマド	10.7・— 3.5	外面：底部から体部へ削り 口縁部ヨコナデ 内面：底部指押さえ 体部ヨコナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 明赤褐色
2	土師器 杯	1号住居 貯蔵穴上層	13.4・6.0 4.8	外面：底部から体部へ削り 口縁部ヨコナデ 内面：底部ナデ 体部ヨコナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 明褐色

2号住居

調査区南側にて検出された。規模は南北3.85m、東西2.89mで、確認面から床面までの深さは約8cmである。掘立柱建物跡と重複関係にあり、本遺構の方が古い。カマドは東側に設置され、住居壁を約80cm造り出して構築されている。両袖部分は川原石が使用され、壁は被熱の為、赤く焼上りし、使用面には灰の堆積が認められ、No.7、8の裏が潰れた状態で出土した。

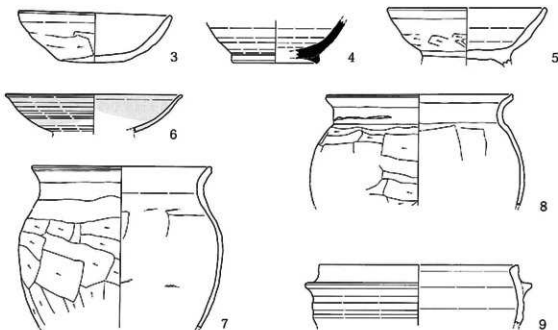
床面は全体的に平坦でカマド全面および住居中央付近が硬くしまっている。ピットが2基確認されたが住居に伴うものではないと考えられる。掘り方は浅く不整形で住居南側が若干深く掘られている。遺物はカマドからNo.3、7、8、9が、床面からNo.4、5、6が出土した。



第7図 2号住居 平面図・断面図 掘り方 平面図 (1/60) カマド 平面図・断面図 (1/30)

2号住居カマド・Dセクション

10. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含む、灰をわずかに含む。
 11. 暗灰色土 粘性强・しまり弱 焼土粒、灰をやや多く含む、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
 12. 黒褐色土 粘性强・しまり弱 焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含む、灰をわずかに含む。
 13. 暗褐色土 粘性强・しまりややあり 焼土粒を多く含む、焼土小ブロック、灰を少量含む。
 14. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 炭化物粒を多く含む、灰、焼土粒を少量含む。
 15. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 白色軽石、黄色粒を少量含む。
 16. 暗赤褐色土 粘性强・しまり弱 焼土小ブロック、焼土粒、炭化物粒、灰をやや多く含む。
 17. 暗褐色土 粘性强・しまり弱 焼土粒、灰を少量含む。
 18. 黒褐色土 粘性强・しまり弱 白色軽石を少量含む、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
 19. 暗褐色土 粘性强・しまり弱 焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。



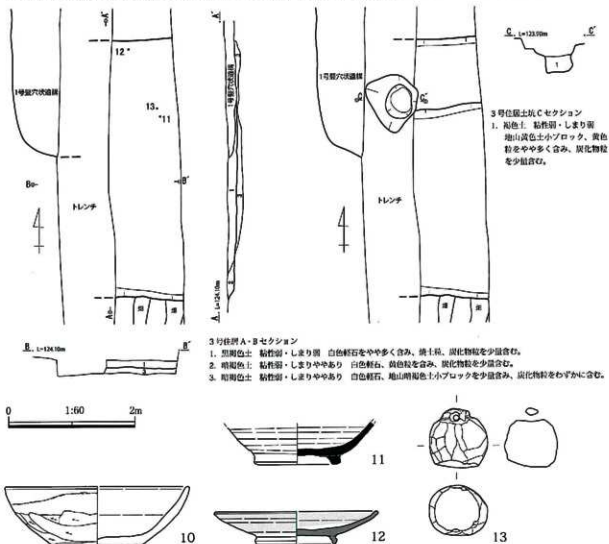
第8図 2号住居出土遺物図 (No.3~6 1/3・No.7~9 1/4)

第2表 2号住居遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土箇所	口径・底径 器高・残高	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
3	土師器 環	2号住居 カマド	12.2・5.1 3.9	外面：底部から体部へラ削り 口縁部ヨコナデ 内面：底部ナデ 体部ヨコナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
4	須恵器 埴	2号住居 床面	—・7.0 〈3.4〉	外面：轆轤整形 底部口縁糸切未調整 高台貼付 内面：轆轤整形 黒斑あり	細砂粒・白色粒 粗礫	やや酸化端(硬質) 褐灰色
5	土師器 高台付環	2号住居 床面	12.7・7.1 4.6	外面：体部へラ削り 口縁部ヨコナデ 高台貼付 内面：体部ヨコナデ ほぼ全体に着物あり(漆か)	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 暗赤褐色
6	灰釉陶器 碗	2号住居 床面	14.0・— 〈3.0〉	外面：轆轤整形 体部から口縁部刷毛による施釉 内面：轆轤整形 体部から口縁部刷毛による施釉	白色粒	良好(硬質) 灰白色
7	土師器 甕	2号住居 カマド	19.0・6.5 ・23.5	外面：体部へラ削り 口縁部ヨコナデ 口唇部沈線有 内面：体部へラナデ 口縁部ヨコナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好(硬質) 暗赤褐色
8	土師器 甕	2号住居 カマド	19.9・— ・11.7	外面：体部へラ削り 口縁部ヨコナデ(コの字状) 内面：体部へラナデ 口縁部ヨコナデ	細砂粒・白色粒 粗礫	良好(硬質) 赤褐色
9	須恵器 羽釜	2号住居 カマド	21.0・— 〈6.4〉	外面：轆轤整形 顎貼付 内面：轆轤整形	細砂粒・白色粒 石英	やや酸化端(硬質) 褐灰色

3号住居

調査区北側にて検出された。東側が調査区外になり、トレンチにより西側が破壊されている為詳細は不明であるが、規模は南北4.1m、東西1.1m以上で、確認面から床面までの深さは8cmである。1号整穴状遺構と重複関係にあり、本遺構の方が古い。カマドは検出されなかったが、住居東側床面には焼土粒が多く検出されている為、東側の調査区外にあると推測される。床面は全体的に平坦に整えられ、東側に若干の硬化面が確認できた。掘り方は浅く不整形で北西側で土坑が検出された。遺物は床面からNa 11～13が出土した。



第9図 3号住居 平面図・断面図(1/60) 出土遺物図(1/3)

第3表 3号住居遺物観察表(単位cm)

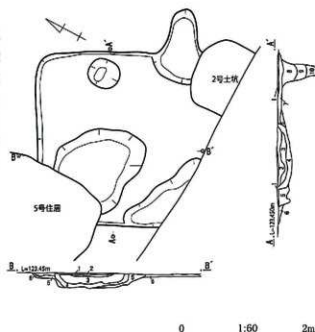
番号	類別 器種	出土遺構 出土箇所	口径・底径 器高・<残高>	形状・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
10	土師器 杯	3号住居 覆土	14.6・7.0 4.7	外面: 底部から体部へう削り 口縁部ヨコナデ 内面: 底部指押さえ 体部から口縁部ヨコナデ	細砂粒・白色粒 雲母	良好(硬質) にふい赤褐色
11	須恵器 埴	3号住居 床面	—・6.8 ・(3.3)	外面: 轆轤整形 底部細糸切未調整 高台貼付 内面: 轆轤整形 黑色付着物あり	細砂粒・白色粒 細礫・雲母	やや酸化過(軟質) 灰黄褐色
12	灰釉陶器 皿	3号住居 床面	12.0・6.4 2.6	外面: 轆轤整形 体部から口縁部刷毛による施釉 内面: 轆轤整形 体部から口縁部刷毛による施釉	黒色粒・細礫	良好(硬質) 灰黄色
13	石製品 分割	3号住居 床面	高4.7 幅4.6 重118g	外面: 胴部削り 底部削り後研磨か 上部に穿孔(径4mm)	石材: 安山岩	色: 暗褐色

4号住居

調査区東側にて検出された。規模は南北2.9 m以上、東西2.75 mで床面は削平され掘り方だけの検出の為、遺存は悪い。5号住居および2号土坑と重複関係にあり、本遺構が一番古い。カマドは東側に設置され、焼土が若干検出されている。住居北側にて部分的に硬化面が確認されており、床面の一部が残存していたと推測される。掘り方は浅く、土坑1基、ピット1基が検出された。

4号住居 A・Bセクション

1. 黒褐色土 粘性强・しまり強 白色軽石、炭化物粒をやや多く含む。
2. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 白色軽石、粘土粒、炭化物を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 白色軽石、粘土粒、炭化物を含む。
4. 黒褐色土 粘性强・しまりあり 地山褐色土小ブロックを多く含む。
5. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 白色軽石、炭化物粒を少量含む。
6. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 白色軽石、炭化物を少量含む。
7. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを少量含む。
8. 黒褐色土 粘性强・しまり弱 炭化物、炭化物粒を少量含む。
9. 黒褐色土 粘性强・しまり弱 炭化物、炭化物粒を少量含む。
10. 暗褐色土 粘性强・しまり弱 地山褐色土小ブロックをやや多く含む。



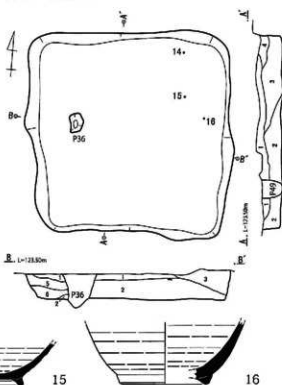
第10図 4号住居 掘り方 平面図・断面図 (1/60)

5号住居

調査区東側にて検出された。規模は南北3.14 m、東西3.23 mでほぼ正方形である。確認面から床面までの深さは約46cmで、今回確認された住居では一番深い。覆土にはAs-B粒が多く含まれている。4号住居と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。カマドは設置されず、住居内に焼土および灰の痕跡は認められなかった。床面は基本堆積VI層の地山黄褐色土を平坦に整え全体的に硬くしまっている。その他の付帯施設は認められなかった。遺物は覆土からNo 14～16が出土した。

5号住居 A・Bセクション

1. 黒褐色土 粘性强・しまりあり As-B粒を多く含む、白色軽石、炭化物粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性强・しまりあり As-B粒を少量含む、地山褐色土小ブロックを多く含む。
3. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり As-B粒を多く含む、地山褐色土小ブロックを含む。
4. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり As-B粒を少量含む、炭化物粒をわずかに含む。
5. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり As-B粒をやや多く含む、粘土粒、炭化物粒を少量含む。
6. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり As-B粒、地山褐色土小ブロックをやや多く含む、炭化物粒を含む。



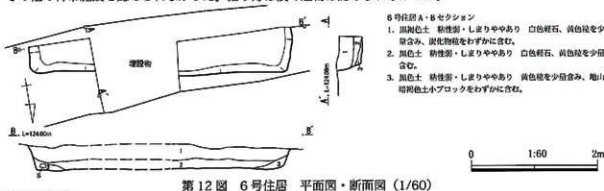
第11図 5号住居 平面図・断面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)

第4表 5号住居遺物観察表 (単位:cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・(残高)	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
14	須恵器 罎	5号住居 覆土	14.6・6.6 3.8	外面: 輪轆整形 底部回転糸切後縁辺部回転へら削り 内面: 輪轆整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 黄灰色
15	須恵器 埴	5号住居 覆土	-・6.7 (\approx 3.3)	外面: 輪轆整形 底部回転糸切未調整 高台貼付 内面: 輪轆整形	細砂粒・白色粒 石英	やや不良(軟質) 黄灰色
16	須恵器 埴	5号住居 覆土	-・7.0 4.9	外面: 輪轆整形 高台貼付 内面: 口縁~体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒 繊維	やや不良(軟質) 褐灰色

6号住居

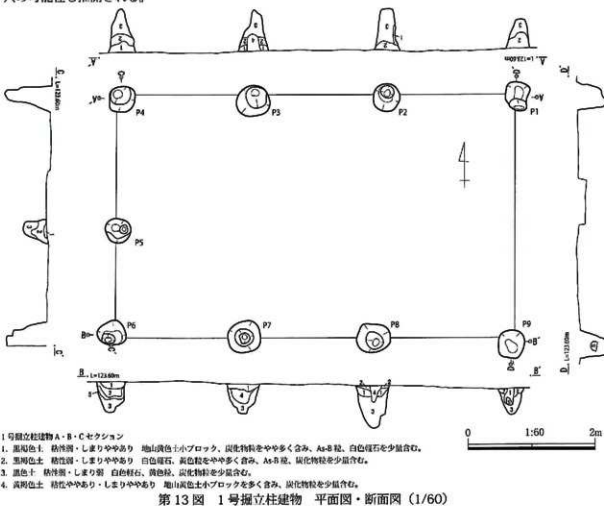
調査区西側にて検出された。ほとんどが調査区外で、北側一部分の検出の為詳細は不明であるが、規模は南北60cm以上、東西4.15mで、確認面から床面までの深さは約38cmである。カマドおよび柱穴は検出されず、その他の付帯施設も認められなかった。掘り方は浅く遺物は認められなかった。



掘立柱建物

1号掘立柱建物

調査区北側にて検出された。1、2号住居と重複関係にあり本遺構が一番新しい。平面形状は東西に主軸をもつ2間3間の建物跡で全9基のピットから構成されると考えられる。主軸方位はN-89°-Wである。規模は南北3.85m、東西6.30mで総面積は24.25㎡である。9号ピットから角閃石安山岩片が確認された。遺物は確認されなかった。周辺ではピットが密集して検出されており、本遺構に伴う柱穴および付帯施設に関する柱穴の可能性も推測される。



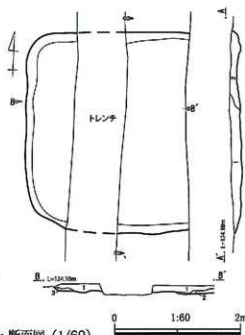
竪穴状遺構

1号竪穴状遺構

調査区北側にて検出された。畑跡と3号住居と重複関係にあり、本遺構は畑跡より古く、3号住居より新しい。規模は南北3.18m、東西2.55m以上で、確認面から底面までの深さは約17cmと浅く、底面は比較的平坦である。硬化面や焼土および灰等は確認されなかった。覆土はAs-A粒と考えられる白色軽石およびAs-B粒と考えられる粗粒子を含む。遺物は土師器の小破片が覆土中から少量出土している。

1号竪穴状遺構 A・Bセクション

1. 暗褐色土 粘性强・しまり弱 As-B粒をやや多く含む、白色軽石 (As-Aか)、炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性强・しまり弱 As-B粒、白色軽石 (As-Aか) を含む、地山暗褐色土小ブロック、黄色粒を少量含む。
3. 暗褐色土 粘性强・しまり弱 地山暗褐色土小ブロック、黄色粒を少量含む。



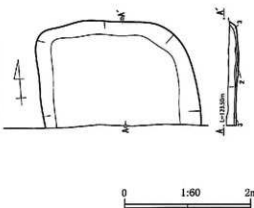
第14図 1号竪穴状遺構 平面図・断面図 (1/60)

2号竪穴状遺構

調査区東側にて検出された。5号住居と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は南北1.68m以上、東西2.47mで確認面から底面までの深さは約17cmと浅く、底面は若干硬化し僅かに凹凸があるが概ね平坦である。焼土および灰等は確認されなかった。覆土はAs-B粒を多く含む、遺物は土師器の小破片が覆土中から少量出土している。

2号竪穴状遺構 Aセクション

1. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり As-B粒を多く含む、炭化物粒、黄色粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり As-B粒をやや多く含む、炭化物粒、黄色粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり As-B粒を含む、白色軽石、黄色粒、炭化物粒を少量含む。



第15図 2号竪穴状遺構 平面図・断面図 (1/60)

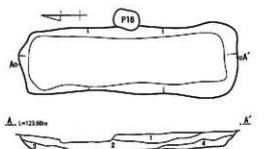
土坑

1号土坑

調査区南側中央付近にて検出された。18号ピットと重複関係にあり本遺構の方が古い。規模は南北3.45m、東西1.08m、平面長方形で、確認面から底面までの深さは約25cmである。覆土には径3~10mm程の白色軽石 (Hr-FPか) が多く含まれ As-B粒の含有が認められない為、帰属時期は平安時代以前であると推測される。遺物は検出されなかった。

1号土坑 Aセクション

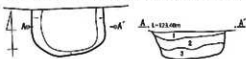
1. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 白色軽石 (Hr-FPか) をやや多く含む、地山暗褐色土小ブロック、黄色粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 白色軽石 (Hr-FPか) をやや多く含む、黄色粒、炭化物粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性强ややあり・しまりややあり 白色軽石 (Hr-FPか)、黄色粒を少量含む。
4. 黒褐色土 粘性强ややあり・しまりややあり 白色軽石 (Hr-FPか)、黄色粒を少量含む、地山暗褐色土小ブロックをわずかに含む。



第16図 1号土坑 平面図・断面図 (1/60)

2号土坑

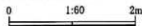
調査区東側検出された。4号住居と重複関係にあり本遺構の方が新しい。規模は南北78cm以上、東西1.16mで平面隅丸方形で、確認面から底面までの深さは約43cmである。覆土には地山褐色土小ブロックが多く含まれ、人為的に埋め戻されたと考えられる。As-B粒の含有が認められない為、帰属時期は平安時代以前であると推測される。遺物は検出されなかった。



第17図 2号土坑 平面図・断面図 (1/60)

2号土坑 Aセクション

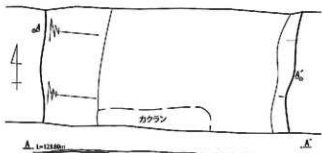
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含む、炭化物粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含む、炭化物粒を少量含む。
3. 褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを非常に多く含む。



溝

1号溝

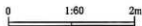
調査区南西側にて検出された。南北方向に主軸をとり、方向はN-5°-Eである。規模は南北1.9m以上、幅4.05mで、底面の傾きはほとんどなく水流を受けた痕跡は確認されなかった。覆土にはAs-B粒が含まれる。遺物は検出されなかった。



第18図 1号溝 平面図・断面図 (1/60)

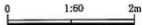
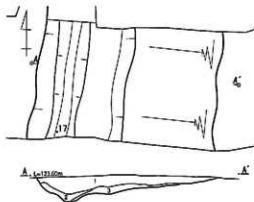
1号溝 Aセクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒をやや多く含む、白色礫石、炭化物粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒を含む、白色礫石、炭化物粒を少量含む。



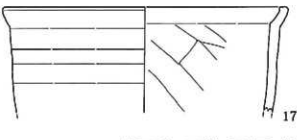
2号溝

調査区南西側にて検出された。南北方向に主軸をとり、方向はN-7°-Eである。規模は南北1.9m以上、幅2.92mで、底面の傾きはほとんどなく水流を受けた痕跡は確認されなかった。覆土にはAs-B粒が含まれ、遺物はNo.17が覆土中から出土した。



2号溝 Aセクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒をやや多く含む、白色礫石、炭化物粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒を少量含む、地山褐色土小ブロック、炭化物粒をわずかに含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒を少量含む、炭化物粒、炭化物粒をわずかに含む。



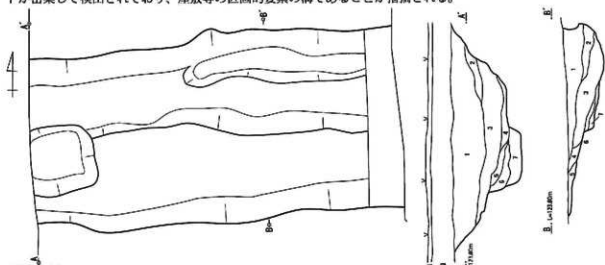
第19図 2号溝 平面図・断面図 (1/60) 出土遺物図 (1/4)

第5表 2号溝遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 種群	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・(残高)	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
17	炊具内器 溝	2号溝 覆土	30.0・— ・(11.2)	外面: 体部から口縁部ヨコナデ 内面: 体部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	細砂粒・白色粒 細礫・石英	良好(やや軟質) 暗褐色土

3号溝

調査区南側にて検出された。東西方向に主軸をとり、方向はN-87°Eである。規模は東西5.90m以上、幅3.03mで、底面の傾きはほとんどなく水流を受けた痕跡は確認されなかった。覆土にはAs-B粒が含まれ、遺物は検出されなかった。西側に覆土に褐色土小ブロックを多く含む土坑状の遺構が検出されている。本遺構は規模や形態および覆土の特徴が2号溝と類似する為、一連の溝の可能性が考えらる。本遺構の北側にはピットが密集して検出されており、屋敷等の区画的要素の溝であることが指摘される。



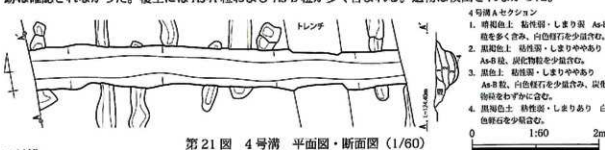
3号溝 A・Bセクション

1. 褐色土 粘性弱・しまり弱 砂子の細かい砂粒を多く含む、As-B及び地山褐色土を含む。
2. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 砂子の細かい砂粒を多く含む、地山褐色土小ブロックをやや多く含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黒褐色土及び白色軽石を少量含む、砂粒を僅かに含む。
4. 灰オレンジ色土 粘性弱・しまりややあり 砂粒を多く含む、1から3m大の礫を少量含む。
5. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山黒褐色土を多く含む、砂粒を含む。
6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。
7. 褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山褐色土小ブロックと黄色粒を非常に多く含む、炭化物粒をわずかに含む。

第20図 3号溝 平面図・断面図 (1/60)

4号溝

調査区北側にて検出された。畑と重複関係にあり本遺構の方が古い。東西方向に主軸をとり、方向はN-81°Wである。規模は東西5.87m以上、幅65cmで、西側から東側に緩やかに傾斜している。水流を受けた痕跡は確認されなかった。覆土にはAs-A粒およびAs-B粒が多く含まれる。遺物は検出されなかった。



第21図 4号溝 平面図・断面図 (1/60)

4号溝 Aセクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒を多く含む、白色軽石を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒、炭化物粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒、白色軽石を少量含む、炭化物粒をわずかに含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 白色軽石を少量含む。

5号溝

調査区北側にて検出され、4号溝と並走している。畑と重複関係にあり本遺構の方が古い。方向はN-75°Wである。規模は東西6.10m以上、幅35~103cmで、西側から東側に緩やかに傾斜している。水流を受けた痕跡は確認されなかった。覆土にはAs-A粒およびAs-B粒が多く含まれる。遺物は検出されなかった。



第22図 5号溝 平面図・断面図 (1/60)

5号溝 Aセクション

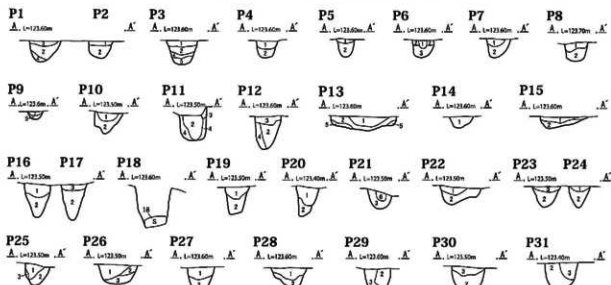
1. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒をやや多く含む、白色軽石、炭化物粒を少量含む。

ビット

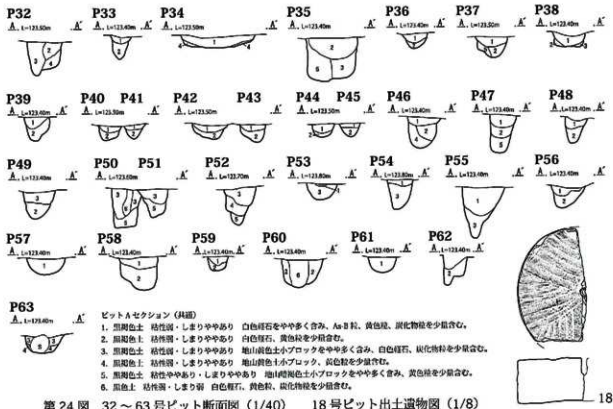
確認されたビットは計 72 基である。1号掘立柱建物付近の調査区南側中央付近に集中して検出され、南東側に広がっているものと推測される。一部直線状に並ぶものや箱状に配置するものもあるが、1号掘立柱建物以外は明確な組み合わせが不明の為、全て単独の遺構として取り扱った。18号ビットからは石臼の破片が出土し、1号掘立柱建物跡9号ビットからは角閃石安山岩片が出土している。

第6表 ビット・掘立柱建物住穴 詳細表 (単位cm・+は以上)

基	平面形状	断面形状	長軸	短軸	深さ	計測方向	備考
1	円形	U字状	33	25 + 24	西東		
2	円形	U字状	29	24 + 19	西東		
3	円形	U字状	34	20 + 27	西東		
4	楕円形	U字状	27	22	18	西東	
5	円形	U字状	22	20 + 19	南北		
6	円形	U字状	29	24	18	南北	
7	円形	U字状	35	30	19	南北	
8	不整形円形	U字状	40	35	20	北南	
9	円形	U字状	25	20	5	東西	
10	不整形円形	段状	31	30	22	北南	
11	不整形円形	U字状	30	24	27	北南	
12	円形	U字状	36	31	34	東西	
13	楕円形	皿状	69	48	16	東西	
14	円形	U字状	36	32	5	東西	
15	円形	皿状	52	44	6	西東	
16	円形	V字状	30	28	35	南北	
17	円形	U字状	30	30	38	南北	
18	圓丸方形	筒状	40	30	41	北南	石臼出土
19	不整形円形	筒状	28	25	29	西東	
20	円形	U字状	29	26	31	西東	
21	不整形円形	U字状	32	28	19	南北	
22	楕円形	段状	50	35	20	西東	
23	不整形円形	U字状	33	31	21	西東	
24	円形	V字状	28	25	24	西東	
25	円形	U字状	32	28	22	北南	
26	楕円形	U字状	45	38	20	北南	
27	円形	U字状	33	27	25	東西	
28	楕円形	段状	42	30	21	西東	
29	円形	U字状	30	30	31	西東	
30	楕円形	U字状	42	30	27	西東	
31	楕円形	U字状	44	35	28	西東	
32	不整形円形	段状	49	43	36	西東	
33	円形	U字状	29	25	25	東西	
34	楕円形	皿状	72	38	6	西東	
35	楕円形	段状	68	38	46	東西	
36	不整形円形	U字状	30	20	16	西東	
37	圓丸方形	段状	33	32	22	東西	
38	楕円形	筒状	37	30	11	東西	
39	不整形円形	段上	30	28	25	東西	
40	円形	U字状	25	25	17	北南	
41	円形	U字状	26	26	15	北南	
42	楕円形	皿状	39	30	14	北南	
43	円形	段状	28	28	18	北南	
44	円形	U字状	25	22	15	東西	
45	円形	U字状	25	20	16	東西	
46	不整形円形	U字状	35	31	33	東西	
47	楕円形	段状	28	23	40	東西	
48	不整形円形	U字状	24	22	26	東西	
49	楕円形	U字状	37	30	28	東西	
50	不整形円形	筒状	30	28	41	北南	
51	不整形円形	U字状	35	31	29	北南	
52	楕円形	段状	57	35	38	西東	
53	不整形円形	U字状	42	33	17	北南	
54	不整形円形	U字状	33	32	34	東西	
55	円形	段状	48	46	54	東西	
56	楕円形	U字状	45	31	22	東西	
57	不整形円形	U字状	51	49	16	北南	
58	不整形円形	段状	52	45	35	北南	
59	圓丸方形	U字状	28	27	16	北南	
60	楕円形	U字状	44	30	29	北南	
61	楕円形	か	40	28	17	北南	
62	円形	段状	33	31	30	北南	
63	円形	U字状	50	46	19	東西	備あり
64	楕円形	U字状	46	37	48	東西	1号掘立1ビット
65	円形	箱状	42	42	63	東西	1号掘立2ビット
66	円形	段状	52	48	64	東西	1号掘立3ビット
67	圓丸方形	U字状	42	41	68	東西	1号掘立4ビット
68	円形	U字状	42	39	36	北南	1号掘立5ビット
69	不整形円形	段状	47	39	49	西東	1号掘立6ビット
70	圓丸方形	段状	52	50	48	西東	1号掘立7ビット
71	不整形円形	段状	54	45	68	西東	1号掘立8ビット
72	不整形円形	U字状	45	41	44	西東	1号掘立9ビット



第23図 1～31号ビット断面図(1/40) 平面図は第4図参照



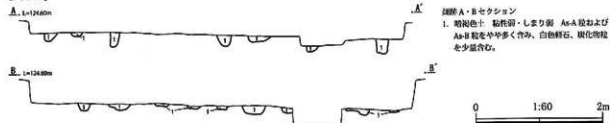
第24図 32～63号ピット断面図(1/40) 18号ピット出土遺物図(1/8)

第7表 18号ピット遺物観察表(単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	直径・穿孔径 厚さ・重さ(kg)	特徴等	石材
18	石製品 石臼	18号ピット 底面	27.4・2.2 9.3・4.5	ふくみは浅い 中央に径2.2cm深さ3.7cmの軸受 全体的に磨滅	安山岩

畑

調査区中央付近から北側で検出された。北側全域はほぼ畑となる。現地表から約20～50cm下にて確認された。3号住居、1号竪穴状遺構、4号溝、5号溝と重複関係にあり本遺構が一番新しい。耕作方向は南北で、概ねN-3°～8°-Eである。覆土にはAs-A軽石と考えられる白色軽石が含まれる為、近世以降の畑と考えられる。



第25図 畑 断面図(1/60) 平面図は第4図参照

VII 総括

今回の調査で検出された竪穴住居は調査区中央から南側に多く、集落の広がりも南側および南東側に求めることができる。調査区中央付近の3号溝を境に北側は南側より約50cm程高く、遺構の密度も少ない。遺構が多いのは1段低い南側で、2号溝と3号溝に囲まれた範囲に集中する。この2つの溝は平面形状および規模が類似し、底面標高もほぼ同じ高さである。また、覆土も同じような含有物の為、一連の溝であることが推測される。このことから調査区南側に館もしくは屋敷の存在が示唆され、今回検出された遺構はそれに関連する可能性が考えられる。

写真図版



空撮 南東から



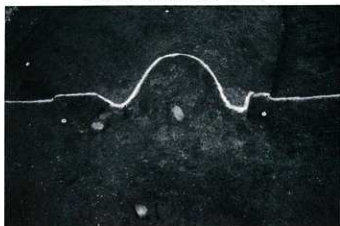
調査区全景 垂直 上が西



1号住居A・Bセクション 南から



1号住居遺物出土状況および全景 西から



1号住居カマド遺物出土状況 西から



1号住居掘り方A・Bセクション 南西から



1号住居カマド掘り方近景 西から



1号住居掘り方全景 西から



2号住居Bセクション 西から



2号住居カマドC・Dセクション 北西から



2号住居遺物出土状況および全景 西から



2号住居カマド遺物出土状況 西から



2号住居カマド近景 西から



2号住居カマド掘り方Dセクション 西から



2号住居カマド掘り方近景 西から



2号住居掘り方全景 西から



3号住居および1号竪穴状遺構Aセクション 西から



3号住居遺物出土状況および全景 東から



3号住居遺物出土状況 南から



3号住居遺物№11・13出土状況近景 西から



3号住居掘り方全景 西から



4号住居確認状況 南西から



4号住居掘り方Bセクション 南西から



4号住居掘り方全景 南西から



5号住居A・Bセクション 北西から



5号住居全景 北から



6号住居A・Bセクション 北東から



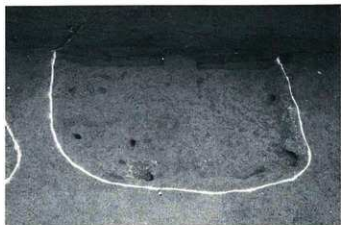
6号住居全景 東から



1号竪穴状遺構全景 北から



2号竪穴状遺構Aセクション 北東から



2号竪穴状遺構全景 北から



1号掘立柱建物3号ピットセクション 北から



1号掘立柱建物5号ピットセクション 北から



1号掘立柱建物6号ピットセクション 北から



1号掘立柱建物7号ピットセクション 北から



1号掘立柱建物9号ピットセクション 北から



1号掘立柱建物全景 西から



1号掘立柱建物全景 北から



1・2号溝全景 北西から



1号溝全景 北から



2号溝遺物出土状況および全景 北から



2号溝遺物No.17 出土状況 北東から



3号溝 Aセクション 東から



3号溝全景 西から



3号溝全景南東から



4号溝 Aセクション 東から



4・5号溝全景 東から



1号土坑 Aセクション 東から



1号土坑全景 東から



各ビット遠景 西から



調査区西側全景 東から



烟確認状況 南から



烟Aセクション 南から



作業風景 南から



烟全景 南から



参考文献

群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史 通史編1 原始古代Ⅰ』群馬県
 群馬町誌編纂委員会 1998『群馬町誌 資料編1 原始古代 中世』群馬町誌刊行委員会
 高崎市教育委員会 1998『高崎市遺跡分布図 高崎市内遺跡詳細分布調査報告書 高崎市教育委員会
 高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
 高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』高崎市
 日沖 剛史 2016『中泉十王堂遺跡』 有限会社 毛野考古学研究所

報告書抄録

フリガナ	ナカイズミジュウオウドウ イセキ ニ
書名	中泉十王堂遺跡 2
副書名	建売分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 416 集
編者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒 370-0005 群馬県高崎市浜尻町 930 番地 6
発行機関	高崎市教育委員会 文化財保護課
発行年月日	令和元（2019）年 7 月 31 日

所収遺跡名	中泉十王堂遺跡 2						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市中泉町字十王堂 67-1						
市町村コード	遺跡番号	北 緯	東 経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	685	36° 22' 37"	138° 59' 53"	20161114	20170114	430㎡	建売分譲住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中泉十王堂遺跡 2	集落	古墳～平安時代 中世	竪穴住居 掘立柱建物 土坑・ピット・溝 畑	土師器 須恵器 石製分銅	As-B を覆土にもつ 区画的要素のある溝 (館・屋敷等の堀か)
	生産	近世以降			

— 中泉十王堂遺跡 2 —

高崎市文化財調査報告書第 416 集

令和元年 7 月 25 日 印刷
令和元年 7 月 31 日 発行

発行 高崎市教育委員会
文化財保護課

編集 有限会社 高澤考古学研究所
印刷 上武印刷株式会社